エゾマツ

北海道ボランティア・
レンジャー協議会
1990.11.15.
１５号
発行責任者
河村　千束

雑感

会長　　河村　千束

林間に酒をあたためて紅葉を焼く

白楽天の詩の一句である。この句は晩秋、錦に染まった林の風景を表現していると思う。紅葉する樹の多い国は中国と日本である。ことに日本はカエデ科をはじめウルシ、ブドウ、バラ、ニシキギ科など紅葉する種類が中国より多いようであり、まさに紅葉国とでも言える国である。

その紅葉が静かに山から山麓へと移動してくる。紅葉は厳しい自然条件の下で植物が生きるための摂理であって、日照時間が短くなり、昼夜の温度差が大きくなればなるほど紅葉は美しくなる。ことに良く晴れた無風の日が続く年ほど赤色、紅葉、黄色など色とりどりに美しく染あげられてゆくのが日本の秋である。

紅葉は樹々の葉に含まれている色素が気温の変化によって作り出された自然からの贈られた芸術品である。最近札幌市街地やその周辺の紅葉が年々その美しさに変化が現れているのを感じたのは、ここ数年のことである。勿論紅葉の美しさは毎年同じではない、その年の風雨の量、気温によって変化するので感動的美しさを味あうのは何年かに一度である。

このように秋の日の気象の変化により美しい紅葉を私達に与えてくれる自然は最近の大気の汚染「酸性雨による森林被害、河川湖沼の汚染、炭酸ガスによる気温上昇、オゾン層の破壊」などにより様々な姿で環境の変化に敏感に対応している。紅葉もまた同じように対応している。

最近私達の周辺の都市開発による自然の乱開発をはじめ、ゴルフ場、スキー場を含めたリゾート開発が各地で乱立している。私は理想とするリゾートは時の流れと共に必要であると理解しているが、現実にはあまりにもビジョンのない場当たり的な計画による短期急な工事施工により多くの社会問題を起こしているのが現状で、その結果として大きな負担と変化を背負わせられた自然から、その代償として常に大なり小なりの災害を人々が受けているのが現在の日本の姿のように思う。

このような実態を観察することも勿論必要なことであるが、私達は私達の周辺の小さな自然の変化を観察し、お互いに情報として交換し、互いに交流の輪を拡げていくことがさしあたりの私達の行動であると思う。その結果としての自然環境保全へのステップとなり、私達の目標としている「人と自然の架け橋」となると私は考えている。

そのためには、先ず各地に連絡会のような会をつくっていただき、お互いに充実した会に育てるよう努力してゆくことが協議会に課せられた問題であると思う今日この頃である。

郷土の自然観察会

留萌市　　祐川　弘

自然教室の手伝いを引き受け中なので、活動の一端を紹介します。春早々に留萌支庁林務課、留萌市海のふるさと館主催で観察会参加者の応募をマスコミを通じて実施。定員２５名、対象小学生４年以上で、一般も可です。日程、場所、内容を明示し、全日程参加可能が条件です。年間６回の教室を開催。春・夏・秋の各自然観察会・磯の自然観察会・一泊予定の特別観察・まとめの会となっています。すでに消化ずみの春、夏の観察会から。

今年度のメイン会場は留萌を一望出来る近くの山岳地域にある「るるもっぺ（留萌のアイヌ名）憩いの森」と称する生活環境保全林です。自然造成と自然改良造成からつくられたそれぞれの森があり、名称は春の森以下散策と小鳥・池・春・散策・郷土・秋・四季・常緑・小鳥の各森です。総面積７１．００ヘクタールあり、自然を生かしながら、人工を加えて調和し、動物にとってはよい環境が造られています。春の観察会は５月に小雨のぱらつく中、背に昼食とおやつ、飲料水、首には、双眼鏡、手には観察ノートのいでたちで１９名が参加し、春の新鮮な空気を胸一杯に吸うことが出来ました。自然造形による草木にふれ、新緑にむれる虫類や鳥の観察も大変に楽しいものでした。セミのぬけがらなども発見され、夏の観察会ではきっとすばらしいセミの声が聞かれることを期待する。反省では一人ひとりが感想と、意識された動植物について発表しあい、夏や秋にはどんな変化が見られるかの問題提起がなされました。話題になったのはアカゲラ、ウグイス、キジバト、センダイムシクイ、ニュウナイスズメ、トビ、ハシブトトカラス、カワラヒワ、オオアカゲラ、ゴジュウカラ、ホオジロ、コムクドリなど鳥の楽園のようでした。（植物紹介は割愛）とにかく鳥や植物の学習から次回に宿題を残しながら終了しました。

夏は７月に強い太陽が照りつけるなか、１７名によって実施しました。春に参加したなじみの顔なので空気はすぐになごみました。春との対比から入り、森林や草類が成長著しく、姿は消えていないがそうとうの変容に気がつきました。鳥達は木や葉にかくれて、発見が大変なのと、春にくらべて種類が非常に少なくなっています。発見した鳥は、シジュウカラ、キジバト、ハシブトカラス、コゲラ、アカゲラだけ、オオルリ、キビタキ、ウグイスは声だけで姿は発見出来ず残念な思いをしました。（夏発見の植物名割愛）春植物は変容し、開花期のものは咲きほこり、特にみあげる程の大木に一面巻きついて咲きほこる前面真っ白なツルアジサイの景観に全員が感嘆しました。秋には同じ場所で又実施されるので、春夏秋の変容状況を観察してゆくなかできっと実のある回答が出る様に今から期待しています。夏の場での子供達の関心はミヤマクワガタの捕獲でした。木をゆすり、穴をのぞきつつく、草むらでの手さぐりなど、できる限りの奮闘で四匹を捕ることができました。参加する子供達は親子同伴者がほとんどで親の理解を得ているわけで、その対話や活動の様子を観察する時に、そこから生みだされる将来の効果は誠に大なるものがあると確信できます。近年の子供達は塾、ならいもの、レジャースポーツなどと多用であるが、この子供達を保護、養育、管理している親の理解さえ得られれば、ごく簡単に自然の方向へ梶が向くものと思われます。今後自然観察のすすめや、自然保護思想の啓発を実践出来る親や、大人の一人でも多く増えますことを念じて結びにします。

（1990 年9 月）

ワープロ初挑戦記念作　　北海道保健環境部環境調整課課長補佐 坂元孝男

自然解説員（ボランティアレンジャー）育成研修会の想い出

第１回支笏湖畔国民休暇村編　　平成２年１０月２０日記

はじめに当時の広報から（道広報誌、道新、タイムス等）

求む！〃自然〃の案内役

あなたも自然解説員（ボランティア・レンジャー）に

北海道の大自然の素晴らしさや大切さをより多くの皆さんに知って頂くため、自然と人間との橋渡し役となる自然解説員（ボランティア．レンジャー）育成研修会を開催します。　自然を愛する人ならどなたでも大歓迎。

あなたも自然解説のための基礎知識を身につけてみませんか。

参加資格．１８才以上の男女．募集人員．５０名．

受講料．無し．ただし２泊６食の費用として１２．０００円

講師．安西英明、阿部永、俵浩三、原松次、八木健三、小川巌、

求む！〃自然〃の案内役　ボランティア．レンジャーを・・・に魅せられてか、更に、従前に増して社会貢献しょうとする心の高まりからか、謎と魅力に充ちた自然とのふれあいや、心の安らぎを求めてか、自然環境への関心の高まる世情に呼応してか、自然の保護と利用や人と自然との共生の追求のためか、何れにしても応募定員５０名に対して１２０余名の申込みがあり私共を喜ばせてくれました。

私の迷想（冥想ではなく、迷いの想い）

時の経つのは早いもので、昭和６１年８月２９日に第１回目の研修会が開催されたのですから５年前の事となります。私も歳の性と、忘却とは忘れ去る事なりか、何れにしても記憶を辿るという事は大変な事ですが、ワープロという近代機器に魅せられて、苦労あっても、打ち込むいうことは面白く楽しいものと考えて、初挑戦です。

思い出しながらの一筆啓上ですので誤りがあれば、エゾマツにてご指摘頂ければ幸いです。（エゾマツ投稿不足？余計な事を打ってしまったゴメンナサイ）

それでは、第１日目、８月２９日の一部を・・・・・３０、３１日の分については参加者それぞれ方に想を起こして貰い、その他の方は、第１回は『そうだったのか』とお読みくだされば結構です。

当日、正午受付開始の予定でしたが、午前１０時過ぎには出で立ちもアルピニスト．スタイル（山岳救助隊、レンジャー隊）、カメラを数台携えた写真家スタイル、現場監督スタイル、散策スタイル、背広にネクタイとジェントルマンスタイル（演習衣は携帯）と多彩でしたが、何れの方も研修を受けようとする意欲、意気込みと、真剣な表情での受付に、心の中でアリガトウ．ガンバッテと叫ぶと共に参加者の意に沿うような研修の中身となるのか不安と焦燥が脳裏に痛く感じたのでした。

１３時　開講とスケジュール通りセレモニーも終え、１講師９０分　の講義が開始されました。

先ず、俵講師から本道の自然と自然保護について．と題して自然に余り関心の無かった人にも理解がきるように具体的に講義された。丁度、知床国有林の択伐が問題となっており北見営林署と自然を愛する人々とのやり取りが報道され自然に対する道民の認識も高まっていた事等から講師も知床に触れ持論を遠慮なく話され、受講者は我身の出来事のように真剣に聞き入っておりましたが、その反応は賛否両論の道民世論の縮小とも云える反応ではなかったかと思います。

受講者は、長旅の疲れと常日頃の環境とは異なる環境下で、聞き洩らすまいと努めてはおりましたが、時には両眼を閉じ、時には、静かに深呼吸？する等、各

自工夫と努力をしていたようです。　（1時間半はキツイ。ゴメン、反省点。）
　５～６分　の休憩後、次に安西講師の講義で、生きもののサバイバル（生存）戦略や、講師がウトナイ湖で実践しているガイド手法の披露と、解説、ガイドにあたって留意すべき事柄等流暢に講義されました。
　受講者は、明日から自分がやるんだ！そうか！と実践家の講義に聞き入っていましたが、余りにも流暢な講義と疲れから、自然に、ゆとり、安らぎを求め実践していた方もおりましたが当然の事ですね。
　スミマセン。努力、辛苦、克服などの文言が痛く思い浮かびました。
　１講師９０分　余りの講義はキツイ。かん難辛苦の研修で荒行と云えるものと想いだしております。
５～６分　休憩に続いて、道から、自然環境保全に係わる法令と道内の自然公園についての講話がありましたが、話し上手なのに受講者の乗りは今ひとつであったと思います。聞きなれない、馴染、魅力がないのと、どうしても固い内容の話しになるのは致し方なしと思ったものです。
時間も１８時過ぎで『腹が減っては、戦は出来ん』の心境では、と想い出される。
　１８時４０分　待ち望んだ夕食のとき。
負担した金額からみれば質量共にＯｋ。＃ｂ♪……。
久方ぶりの合宿で懐かしみは一層でしたが、味気がもうひとつ（晩酌が無いからか）それとも愛する？相手がいないからか、これも修業さ、と納得Ｏｋ。
宿泊、研修の場である国民宿舎は、セルフ。サービスで夕食後、各自割当ての室で蒲団敷き、８畳１間に４人窮屈だが、出会い、ふれあいも研修、辛抱、辛抱。
　１９時３０分　研修再開、根室支庁赤坂係長のカナダアルバータ一州の保護管理について、スライド上映に併せての説明から快適だ。道内では、知床の択伐に関連してシマフクロウ、ヒグマ等の野生動物の保護管理の問題が世論を賑わしていた事などから、北海道では、と夫々が頭に描いてなのか、（夕食後で目の皮もたるむと云われる時間帯）時間ですよの呼び掛けに『もう少し続けて』の声が多くでました『後の出番が控えています』と冷たく打ち切りました。ご免なさい。
　続いて、２０時４０分　から、自己紹介と自由討論でした。
はじめは、遠慮勝ちでしたが、時間が経つにつれて盛り上がり配った１缶のカンジュースでは、もの足りないとの声が聞かれたり、知床の問題と国有林野施策、道の自然保護施策についての意見、ボランティアの考え方、レンジャーに対する期待アフターケアー、この研修は厳しいのでもう少し参加者同志が交流出来る時間を考えるべき等、多くの然も貴重な意見がでました。（書き切れ無いので御免）
　後先になりましたが、自己紹介時の想い出。
参加の動機は、自然の知識を深めて他の人々に伝えたいから、植物や動物の保護監視をやりたいから、ボランティア。レンジャーは、自然のガイドと併せて山岳救難に当たったり、自然を対象にした写真撮影を行う等して幅広く道民の自然に対いする意識啓発等の仕事が出来るのではと、思った等の意見もありました。
　参加者には、自然観察会や探鳥会に参加したことのある人（２０人位）。また、自然解説実践者の方もおり心強さを感じました。（１２～３人位）
　２０時４０分　過ぎ、会が盛り上がったところで終わりとしましたが、未だ意見を述べられない方もおり大変失礼したと思っております。（うっ憤蓄積？）
　台風崩れの低気圧が上陸とのニュースと、翌朝は、５時３０分　起床し、自然観察の実習を行う事となっている事から、早い就寝を勧めたが、研究熱心か、ストレス解消か、気のあう同志が集い合い、深夜まで意見交換が続けられていたようです。（自動販売機のアルコール類は、何れも売り切れと聞いたが？）
２日目、３日目、そして第２回については、エゾマツ寂しい時に投稿したい。？？
　最後に会の御発展と会員皆様の益々の御隆昌を祈念してワープロの初打ち止め。

早春前線から紅葉前線へ

江別市　　須賀　盛典

２月の冬の森林観察会、５月の春、８月の夏、そして予定されている１０月の秋の観察会とその季節おりおりの森の素晴らしい姿を見ることができ、私達を楽しませてくれています。冬の観察会では槍の穂先のように光ったホオノキの芽、春にはつぶらなカエデ類の暗紅色や黄色の花、そして夏には濃い緑の森の中に白い花が見事なツルアジサイなどが鮮やかに目に映り印象に残っています。

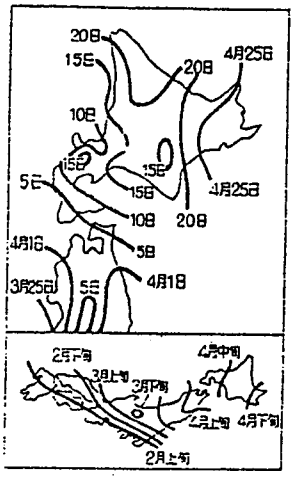
最近のテレビなどの天気予報を見ていますと、最低気温の予想が１０°Ｃを割るようになってきました。また、大陸の高気圧とか上空の寒気と言った言葉も聞かれるようになりました。大雪山、羊蹄山ではすでに初冠雪の便りもあり、季節の変わり目を肌に感ずるようになりました。

紅葉（黄葉）の季節もやって来ましたが、春先からの気温の変化と共にどのようにかわって行くか私なりに追ってみることにします。

北海道の自然と天気との関わりについては、北海道新聞社編「北の天気」に興味深く書かれていますので参考にしました。

３月野幌の森林公園に行きますと一面雪に覆われていますが、木の芽はふくらみはじめなんとなく春めいています。しかし植物が冬眠から目覚め活動を再開するのは、日平均気温がおおよそ５°Ｃ以上とされています。この気温５°Ｃの線を「早春前線」ともいわれています。２月上旬関東地方の南岸にあった早春前線は北上を続け、津軽海峡を渡り江差に上陸するのは４月４日頃で札幌は４月１０日です。なお、今年は温かく札幌では３月１１日にすでになりました。

早春前線が通り過ぎるとニリンソウ、エゾエンゴサク、などが咲きだします。また、早春の木キタコブシの花も見られるようになります。桜の花の開花もこの早春前線通過後の気温の行程の度合いが大いに関係します。



早春前線（日平均気温５℃）の北上.
（メヒク天気より）

やがて、日平均気温が１０°Ｃ前後になると桜の花が咲きだしてきます。「桜前線」の到着です。札幌の平均気温は５月３日です。今年は４月２５日でした。

やがて、移動性高気圧に覆われ、バカ陽気の日もやってきますと、カッコウも鳴きだし、日中の最高気温も２０°Ｃを越える日もあります。桜の花が終わると、ライラックの花が咲きだしますが、北海道の天気はオホーツク海高気圧に支配されるようになり、いわゆる「リラ冷え」の天気になっていきます。しかし、森では日増しに緑が増しています。

平均気温が１３°Ｃを越えるようになると、大多数の人が行楽に出かけるといった調査もあり、タケノコ、フキなど山菜採りに出かけるのもこの頃からでしょうか。

今年は春から夏にかけては、平年より暖かく、街路樹のハクウンボクは６

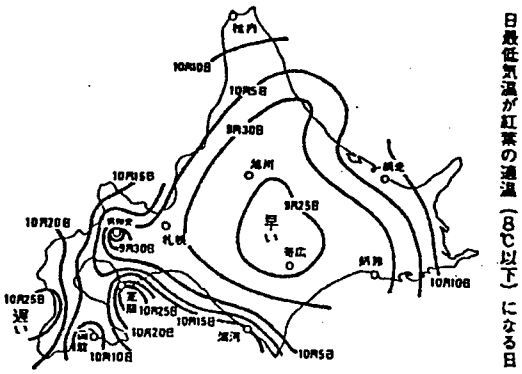
月の始めにはすでに咲いていました。ビールがうまいといわれるようになる時期はアカシアの花が咲く頃で、日の最高気温が２０°Ｃ以上が目安のようです。札幌ではアカシアの花の咲くのは６月１０日前後ですが、平年の日最高気温が２０°Ｃになるのが６月８日です。

北海道では７月末から立秋８月８日にかけてが、一番暑い時期ですが、立秋を過ぎると秋のたたずまいを感ずるようになり、エゾヤマハギが咲き始めます。釧路地方では８月１０日前後のようですが、最低気温は１５°Ｃです。桜の花ほど気温との関係ははっきりしないようです。

満開になるのは、気温が急に下がりはじめる頃で、季節の折り返し点で咲く花のようです。アイヌの人はエゾヤマハギが咲きだすと、マスが川に上り、花が散るとサケがやって来るので漁の準備をしたとか、ススキ、キキョウなどと共に秋の到来を告げてくれます。

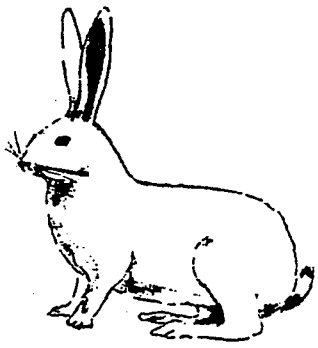
中秋の名月が過ぎる頃には、木の葉は紅葉してきます。高山から山麓へ、そして南下してきます。いわゆる「紅葉前線」の南下です。日最高気温が８°Ｃ以下になると、日中の光合成でできた糖が赤い（アントシアン）に変わるといわれています。従って昼夜の気温の差の大きい山や渓谷などでは紅葉が鮮やかになります。札幌で日最高気温が８°Ｃになる平均値は１０月４日です。道内では、大雪山、ニセコ周辺から始まっり９月末から１０月中旬にかけて全道に拡がっていきます。

北国の短い秋を楽しましてくれた紅葉も気温が５°Ｃ以下になると光合成ができなくなり葉を落とすことになります。落葉も終わり地面が枯葉で埋まると、それを待っていたかのように森は雪に覆われます。なお、札幌の平均気温が５°Ｃになる平均値は１１月１１日です。



最後になりますが、気象台や測候所では、特定の木（標本木）を定めて、開花、満開、紅葉（黄葉）落葉を観測をしています。皆さんも森林公園や庭木などで自分の木を定め、季節の折りに触れて観測しては如何でしょうか。定義はむずかしいものではありません。開花は数輪咲いた日、満開は約８割位咲いた日で紅葉（黄葉）、落ち葉も同じ８割が目安です。標本木の選定についてはいろいろありますが、私達が森で自分の木を決めるのですから各自の好みでよろしいのでは、でも丈夫で長持ちするのがよいですね。

（1990年10月）



色丹島の自然

札幌市　　関　廣　司

昨年の８月、父の代からの念願であった千島墓参で色丹島、歯舞諸島の多楽島、志発島に行った。その折りの極めて限られた短い時間の見聞ではあるが、これらの島々の自然やそこに生活する人々の状態について述べてみたいと思う。

最初に行った色丹島は根室からの航路距離にして１４０粁余といわれ、函館～青森間の距離くらいのところにある。時間で４、５時間の船旅であり、日本に復帰すれば何時でも往来できるところである。島の緯度は丁度旭川位のところにあるので、平素漠然と千島の島々ということで、北に位置すると感じている方が多いと思われるが差程ではない。

色丹島はアイヌ語で“大きい島”との意だそうである。実際の大きさは２５５平方粁、利尻島と礼文島を合わせたくらいである。周囲が７８粁とか、考えていた大きさよりかなり大きな島であった。終戦時には１６７世帯、９２０人の人たちが居住していたが、現在はソビエト人が約７０００人いて、軍関係者、漁業関係者が大半のようである。因みにいわゆる北方四島の面積合計は４９９６平方粁で、愛知県の５１２７平方粁にほぼ匹敵し、四国の約４分の１である。

気候は、私自身居住したことはないのでよく分からないが、根釧地方の延長上にあることからいって、本道の太平洋沿岸特有の海霧の影響が強い地域と同様であり、夏は寒い日が多いが、海霧が無く晴天に見舞われると一転してシャツ一枚の日和りになる。昨年の８月は大変暑かった。

植物の生育状況も、当然とはいえ根釧地方とよく似ている。樹木はシラカバ、エゾマツ、トドマツが多く、戦前は島民の燃料に利用されたという。

海岸の崖の上には盆栽として有名なシコタンマツがいまもあるらしいが、コケモモ、ガンコウランなどの高山植物とともに復帰した後の保護対策が重要であろう。気温が低く、海霧の卓越するところから樹木の類は一様に背丈が低い。しかし、宗谷、北部留萌地方に見るような強い北西からの海風に傾いている姿とも違って真直ぐのものが多い。

国後と択捉両島には森林が存在し、１５００米をこえる高山もあることから、景観は男性的であるのに対して、色丹はやわ肌のような丘陵地が多くチシマザサや高山植物、シコタンマツ、点在するエゾマツ、トドマツが描く風景は女性的で、まことに美しい島である。戦前、国の指定する公園への運動もあったとか。我々が訪れたとき、太平洋岸はまったく人為的な手が加えられた風はなく、海上から眺める自然景観は、延々とうちつづく断崖、群れ飛ぶカモメ類、エトピリカなどの海鳥など、原始的景観が残されており、その美しさに人々は改めて感嘆したのであった。

色丹島は山容、海岸地形、高山植物などの植物相などで知床を凌ぐものがあるといわれ、領土復帰がなされるときには、直ちに国立公園化を図るべきであるというのが旧島民を始めとして関係者の一致する意見である。資源についても同様のことがいえ、島の周囲ではサケ、マスのような回遊魚はもとより、沿岸の底魚、コンブなど海藻類も、豊富に存在するようだ。

我々が三島を訪れたとき、島の海岸には膨大な量の昆布が海岸に打ち上げられたまま放置され腐敗していた。このことは我々日本人とソビエト人の資源利用に相違がある結果であろう。最近のテレビで、先方の人々が島には魚も少なく、経済的な価値が少ないといっていたが、旧島民は何と見たことであろうか。

歯舞諸島に属する多楽と志発の両島には山がなく、全く平坦な地形である。樹木もなく、海岸付近では砂地に育つ植物が群生し、奥に進むにつれ

て北海道の平地に普通に見られる草本類があった。恐らく海抜にして１０～２０米しかない島であるが、全く不思議なことには、かつて日本人が、終戦時に志発島には約１７００人、多楽島には約１２００人住んでいたにもかかわらず、昨年の墓参に際し、島にはかつて日本人が残してきた家屋学校、神社、お寺、缶詰工場といった建物類が全く綺麗に消失していたのであった。もと島民の人々は一様に悲嘆にくれていた。

一説によれば、かつてのチリ地震津波によって海岸沿いにあった建物が根こそぎ浚われたのではないかといっている人もいたが、内陸部にあったものまで全て存在しないということは理解に苦しむものであった。本年８月、択捉に墓参に訪れた人々が現地に見たものは、歯舞諸島の姿と同じく故郷の建物の消失であったという。それは戦後のある時期に、日本人の生活の残滓を完全に無くしてしまうという政策のせいであったというのが真相のようである。まさしく“国破れて山河在り”である。

いま行ってみるとこれらの島には舗装された道路などはない。自動車の姿も少なく、港湾なども未整備の状態である。農業開発の状態も遅れていて本道とは比較にならない。自然の草地を利用した乳牛の飼育も若干見られたが島の人々の需要には全然追い付かないだろう。野菜の生産も個々に粗末なビニール・ハウスを作り自給している。全般的に魚以外の物資は不足し、わけても建設資材が著しく足りない姿がうかがわれる。今後当分の間、領土返還の話もあってこうした面の改善は一層難しく、島の人々の暮らしは困難が十分に予想されるところである。

最後に私が訪れた三つの島に限らず、自然が豊かに残されている他の島々が日本に返還され、多くの人々が彼の地の自然に触れることの出来る日が来ることを切望するものである。

―入会申し込みと会費納入について―

入会は会則（第五条）により、会費の納入によって入会申し込み及び継続会員として手続きがなされたものとします。
会務執行の都合もありますので、１１月２０日までに納入下さるようお願いします。

会費は３０００円です。
郵便振替口座
番号　小樽　８－２１４４２
名称　北海道ボランティア・レンジャー協議会

現金の納入その他不明な点は下記にお願いします。

〒　０６５　札幌市東区東苗穂６条１丁目８－２６
小竹　数博
電話　０１１－７８４－８２５１

「二つの事を守れ」

札幌市　　田口　潤朗

私が山に登り始めた頃、こんな話しをしてくれた友人がいた。
「高山植物は、花を咲かせるのに5年間も、岩の間や少しの土の中で耐えている。芽がで葉がでて、そして花は短い数週間の命を一生懸命に美しく咲こうと努力している。だから美しいのだ。この花の生い立ちを知ったら、簡単に花は折れない。」また「人間は、自然に絶対勝つことはできない。自然に逆らうな。少しでも危険だと思ったら、すぐ退散しろ。この二つのことを守ることで、自然はいつまでも美しさを維持できるのだ。」・・・と。
自然を愛し、自然を敬う。この心こそ、本当の自然保護ではないだろうか。
残り少ない自然を大切に保存するには、われわれボランティア・レンジャーの役割が重大だと感じています。
空は青く、山々は色づき、森林には木の実が稔り、そして秋風の歌を聞く。こんななかを一人山を楽しんでいる今日、この頃です。
皆様の活躍を期待しています。

今期の役員が決まりました

今期の役員は、会則第6条2項に基ずき次の通り選出されました。

会　長　　河村　千東

副会長　　大友　健　（総務）
〃　　八戸克己　（研修・広報）

幹　事　（総務部担当）
鈴木広司、小竹数博、　簾内道夫、木村万治郎
（研修部担当）
住吉光子、西尾貞敞、田口潤朗、須賀盛典、加藤清春、関　広司、　武田伸彦
（広報担当）
佐々木幸夫、山上光一、玉田紀美子、三谷幸美

地方幹事　森永　浩、片山健也、白井信三、藤井三郎、小野勝広、佐々木幹彦、竹本幹彦

監査員　　大杉三郎　野月筆雄

「自然とのふれあい」

札幌市　　竹内　英子

健康のためにと始めた散歩が登山となり、近郊の山々で、花、草、木、鳥など様々な自然と出会い、自然の美しさに感動し、もっと自然を知りたく野幌森林観察会に参加して、テレビ、新聞、雑誌、などの自然観察番組や記事に、関心を持ってみると、なお一層すばらしい自然が身近に沢山あり、毎日の散歩がより楽しくなりました。

野幌森林公園の木や草花も彩りを増し、端穂の池の小鳥達も渡りの準備を始め、羽ばたきも一段と増し、秋の訪れを感じながら、朝の散歩を楽しんでいます。

この半年位で出合った小鳥立ちは数えきれないほど、中でもアオサギ、オシドリ、カワセミ、オオルリ、キビタキ、シロハラ、植物ではラン科のサルメンエビネ、トケンラン、ヒメミヤマウズラ、リンドウ科のアケボノソウ、など。

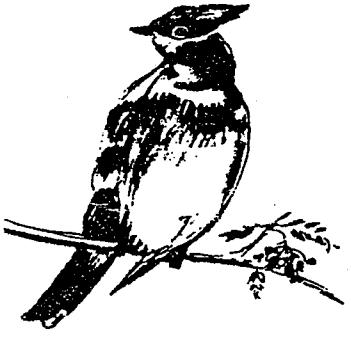
図鑑かテレビでしか見ることはない小鳥や植物に出合った時は、自然の素晴らしさに胸がたかなり、その日一日がとてもたのしくウキウキします。短い期間にこんなに多くの鳥たちの名前や鳴き声を聞きわけることが出来たのは、バードウオッチングをしている方に毎朝出合う事が出来、お友達になれたのです。

自然を愛する人の心のやさしさにもふれることが出来た幸せを感じました。最近あちこちで、自然を保護する、自然としたしむ、自然と遊ぶなど耳にする機会が多くあります。

自然の素晴らしさや大切さを多くの人達に理解してもらうため、自然と人間の橋渡し役のボランティア・レンジャーには、まだまた不勉強ですが、多くの集いに参加して少しでも皆さんに近づけるよう勉強して、お仲間になれたらと思っています。さいわい私達のまわりには、多くの自然が、残されています。

これからもより楽しく自然とふれあい、残りの人生を健康で楽しくおくる事が出来たらと思っています。

（1990年 9月）



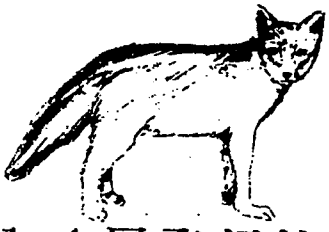
自然のお医者さん

北見市　　小野　勝広

緑だった木々たちが4度目の御色直しをしています。赤、黄等色々な着物を着てまるでファッションショーですね。鳥達も夏鳥は暖かな地方へ、また冬鳥達は日本に来たようです。それなのに今年のお天気は例年になく多雨年と見受けます。異常気象が起きている様ですね。人間の責任なら、早急に自然への関心をアピールする必要がありそうです。

最近の河川について気がついた事を一言。北見の常呂川の水位は雨が降って2～3時間で急激な増水が見られるのです。15年も前に見た常呂川とは明らかに違うのです。とにかく濁るのも早いし流速（水の流れの速さ）も可成の勢いなのです。原因としては草地、樹木等の減少、裸地の拡大、表面舗装、路面等の急速排水処理等沢山の複合要素に起因するものと思えるのです。受け皿としての河川もまた同様に、直線的流路、コンクリート被覆、河床の均一、河川短絡路、堤外地の樹木及び草の伐採、障害物たる大きな石或は凹凸の除去等、これまた沢山起因するものがあると思われます。蛇行流路の直線化、それにともなう流速のアップ、速い流れに削られる岸はブロック等で被覆する。流水が当たってはね返り別の岸を削り取る。削られない様にまた護岸といった繰り返しなのです。昔の日本人の様にもっと自然を受け流しても良いのではないだろうか。自然に対抗するのではなく、自然の流れを形状をうまく利用する方法、自然を何よりも大切にした日本人の気持ちに戻っても良いのではでしょうか。標高差が同じでも蛇行することにより流速をゆるやかにしています。しかし標高差はそのままで蛇行を直線に短絡するので勾配は急になり流速も早くなるのは当然。ですから昔の人は景観をこわさずに河岸を守る高い根の張る樹木を植えたり、河川の満流時には分散される様に二重堀りの河川を用意したりする。また堤内については、消防水利と生活水と冠水した場合には速やかに排水する為の水路が生活圏にあった。現在の土地事情により水路は地下にと埋まってしまっています。水鳥達には休む所が繁殖する場所がないのです。宮島沼としてしかり。どこにも休む場所がなくて人間の目の触れ易いところに現れていることに気付いている人達はすくないと思うのです。毎日鳥の数が増えているのは逆に彼らの休む場所が地球上から姿を消していることに気付いてほしいものです。川のブロック等で見通しが良いのは、風も強いし第一に屋根のない所にアスファルトの地べタで雨露にあたる所で寝てくださいと言っているのに等しいのです。繁殖の出きない所には鳥は来ません。エサがなければ来ません。山の森林とて同じだと思います。最近では森林浴という言葉が一人歩きして来ている様な気がします。森林には不思議な力があります。人間の脳中枢を刺激し、ストレスを解消させてくれるのです。なんでもストレスを解消させてリラックスさせてくれる物質を「フィトン・チッド」と言うのだそうです。これはロシア語に由来するもので、フィトンとは「植物」、チッドとは「殺す」と言う意味だという。一見して危険な言葉だが我々の不健康を殺す植物ということでは、自然がくれる薬なのではないだろうか。そんな自然を見つめ直す手助けとしてボランティア・レンジャーがより多くの人達にこの偉大な自然の薬を紹介できたらと思うのです。最近はズックのままでいける遊び場、家庭の延長上でなければならないキャンプ地の計画、ちょっと昔なら考えられないこと。自然との触れ合い駐車場が足りないから、食堂がないからと樹木を伐採しアスファルト舗装の駐車場。昆虫達の生活はどうするのだろうか。鳥や動物の寝ぐらはどうなるのだろう。歩いて行ける。或いはロウソクで夜を過ごす。それで良いと思う。テレビが山の中で見れなくても良いと思う。そのままにして、そ

森の中で遊べてよいのではないだろうか。空気を作り、気温の上昇を抑え、冬の凍結から守る保温の役目、降雨流出の遅延効果、飲料水の確保、食糧の確保等沢山の恵みを与えてくれる。やはり偉大な母だと感じる。自然保護を訴えながら割バシを沢山使う活動家。少しづつでも改善して大勢の人が均等に楽しませてもらう自然を、早く皆で教えてあげたいと思うのです。人間の不健康を治してくれる自然のお医者さんを大切にしてもらえる様に頑張りましょう。



会報ＮＯ１４号発行後の協議会あれこれ

前回の会報ＮＯ１４号が８月７日に発行された後、今回のＮＯ１５号発行の間にあった出来事を紹介します。

その１．

ちょっつと古い話題になるかも知れないが、７月２８日午前９時３０分からＳＴＶで「みんなの赤レンガ」が１５分間にボランティア・レンジャーについての放映。内容は７月２０日から２２日に行われたアポイ会場でのボランティア・レンジャー研修状況と野幌森林公園（野幌森林公園事務所主催）で行った、月例観察会に活躍しているボランティア・レンジャーの実態で、会員の皆さんのなかでこの画面を見られた方もいると思います。

その２．

８月１２日、野幌森林公園事務所主催の夏の森林観察会に参加。参加総数５５名のうち、協議会々員５名、それにアポイ会場と野幌会場で研修を受けたボランティア・レンジャーが８名参加され、大沢口を起・終点に大沢園地で昼食を摂り各コースを観察しました。

その３．

７月２９日（日）、全道庁婦人部主催の自然観察会に協議会会員３名参加。野幌森林公園内の北海道開拓記念館前から瑞穂池広場までのコースを予定し、計画の８０％地点で突然の降雨となり記念館前の芝生で、葉の拓本作りをしてその責任を果たしました。参加人員４５名（うち子供１７名）

その４．

８月２５～２６日、札幌市南区定山渓にある札幌営林署保養署「豊林荘」で、北海道ボランティア・レンジャー協議会第５回提起総会を開き、前年度の行事、決算報告と平成２年度の事業計画、予算案を一部補正して承認し、新役員の改選を行いました。

その５．

９月２日（日）、石狩支庁、恵庭市主催の自然教室の一部としての恵庭市緑のふるさと森林公園で催した自然観察会に協議会々員５名参加しました。参加総数４５名。

その６．
９月９日（日）、協議会主催の「野幌自然観察の集い」は北海道保健環境部自然保護課・野幌公園事務所の後援で、北海道開拓の村から瑞穂広場までの１キロメートルの自然観察と広場でネイチャーゲームをしました。
参加総数は７７名で１～４回研修１１名。５～７回研修が２０名と多数の参加・協力を得て盛会裡に終わることが出来ました。特に幌加内、上砂川、岩見沢からの参加された皆さんに感謝申し上げます。

今後、時代の趨勢でより一層の自然観察に係わる機会が各種機関、地方団体、各種団体（町内会、職場、生協等）などで催すことが多くなってくることが予想されます。
私達の協議会ではこれらの依頼に対しては許せる範囲で、積極的に協力していくことになります。

北海道ボランティア・レンジャー協議会．第５回定期総会報告

第５回定期総会は、９月２５日～２６日の１泊２日定山渓温泉「豊林荘」で出席者１２名（ほか委任状３９名）により開催されました。
議長には佐々木幸夫氏（第４期）が選出され議事が進められましたが、開始時間の遅れや会場の都合で役員の選出など、一部議案を残し懇親会に移行しました。
今回の総会には、第４期受講者や地元から初めて出席された役員もおられたこともあり、懇親会では和やかな談笑なかでいろいろな意見交換がなされました。
この後、残された議案の取扱については、翌日審議することになり第１日を終了しました。
なお、この日は天気もよく会場の豊林荘周辺は、天然林、人工林などの森林や豊平川の渓流沿いに遊歩道などもあり、総会開始前に野外観察をされたり、すぐ近くにある朝日岳の登山をしたり、また翌日も早朝から朝露を踏みながら自然観察を兼ねた散策をされた皆さんもおられました。
第２日目、朝食後、早速前日に引き続き残された議案審議のため総会が再会され、会の組織や役員構成の在り方までにおよんで真剣な討議がなされました。
その結果、役員の選出では基本的に現役員留任として、空席になっているところを補充することにし、また各地域との情報交換や活発な活動を図るために、新たに地方幹事を置くことになりました。このほか会の運営その他についても様々な意見、要望が出されましたが、一部原案を補正するなど、事業を総じて審議し承認されました。
今回の総会を省みますと、地域的にまた業務の片手間でのボランティア活動ということでその運営には難しさがありますものの、今回初めて出席された皆さんの真剣なお話をうかがい、新たな方向が示されたような感じをいだきました。
今後は会員相互の信頼と連携をより密にするとともに、関係機関との調整も一層深めながら、よりよい会の体制づくりと運営に懸命な努力をしてまいります。

（総務部）

地方会員の皆様にお願い

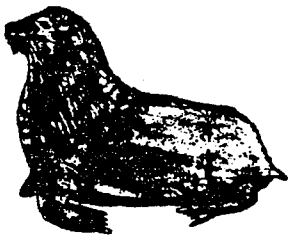
地方在住の皆様には、紅葉の野山に自然の親しみをいろいろ感じレンジャーとしてご活躍なされておられることと思います。

先般の総会におきまして、地方に支会というものを結成することが決議され、内規により運営されることになりました。

札幌中心の活動が年間計画の大半を占め、地方の会員の方々との交流も不十分なままに会務を執行することは、会の健全な発展に多くの支障を来す結果にほかなりません。

来年度は３回にわたり自然解説員の育成研修が行われ、多くの仲間が入会されることになりますが、是非、支会を活用されて地方的活動をより高めてもらいたいものです。それには地域の先輩や自然に親しむ会合などの機会をとらえ、支会を設立発展させてみませんか。

このように地方の支会にささえられる会こそ、名実を備えた協議会になると思います。　（事務局）



編集後記

引き続き原稿打ち（ワーロプロ）をさせていただくことになりました。至らないところが沢山あり、ご迷惑をおかけすることがあると思いますが今後ともご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。沢山の原稿をお待ちしています。原稿送り先は次のとおりです。

〒０６２　札幌市豊平区月寒西３条８丁目１番１－３１２
山上　光一
☎　０１１－８５６－６７５６